

家庭学習を見直してみませんか

平成14年3月
栃木県総合教育センター研究調査部

文科省の「学びのすすめ」が出たけれど、宿題をたくさん出すことになるのかな？「補習」も気になるね。学力低下も心配されているし……。

NHKの調査では、栃木県のテレビ視聴時間は全国一で、読書や家庭学習時間の減少も問題になっているそうよ。うちの学校の子どもたちはどうなのかしら？



これまで宿題を減らしてきたのに……。保護者の中にも、たくさん出してほしいという方と、あまり出さないでほしいという方がいらっしゃるし……。子どもたちはどうなのかしら？

でも、ほんとうに宿題を出すことで、家庭学習の習慣が付いているのかな？宿題って何だろう？ほかの先生方はどんな工夫をしているのかな？

「学ぶ習慣」を考える

私たちは、いわゆる知識偏重への反省から、学力観の転換を図ってきました。そしていま、主体的に問題を解決する能力の育成とその基盤となる学力を保障することが学校に求められており、「宿題」が話題となっています。

では、家庭学習の一部である「宿題」を増やせば学力は向上するのでしょうか。

確かにたくさん勉強すれば、ある程度学力は向上するでしょう。しかし、現在のテストや進学を目標にした学習だけでは、目標到達後に学ぼうとする意欲が消失してしまいがちです。このことから考えると、「分かる」、「できる」授業の実現とあわせて、自ら学ぶ習慣が付くよう指導することが大切です。

ここで注意したいのは、「学ぶ習慣」とは、単に机に向かう習慣ではないということです。学ぶことのよさ、すばらしさを実感する体験を積むことによって、結果的に習慣が付くことをめざしたいものです。



「宿題」のよさを次のように考えてみてはどうでしょうか。

- 子どもが自ら楽しんで学ぶきっかけになる
- 生涯にわたって学ぶ姿勢の基礎をつくる
- 『確かな学力』が身に付く

「宿題」を見直してみましよう

学校全体として



ところで、先生方は宿題についてどう考えているのかな？今までに出した宿題について、じっくり話し合っておくことも必要ですね！

- 先生一人ひとりの宿題に対する考え方の違いによって、宿題の出し方にも違いがでできます。宿題のうまくいったところやあまり効果のなかったことなどを、みんなで話し合う場をもつことは、宿題についてじっくり考えてみるよい機会になります。

それと、子どもたちの家庭学習の様子はどうなのでしょう？保護者の考えも知っておく必要もありますね！

- 学校や家庭における子どもたちの学びの状況を十分把握しているでしょうか。また、休日等の自由時間をどのように過ごしているか、そして、保護者は宿題等についてどのような考えをもっているのかなどもきちんと把握しておくことが大切です。



自校の宿題の方針について、保護者に十分説明できるように、全職員で共通理解を図りましょう



- 家庭学習の在り方
- 学年段階を考慮した宿題の出し方
- 学習内容に応じた宿題の出し方
- 習熟度に応じた宿題の出し方
- 長期休業中の宿題の出し方
- 宿題の点検と活用の仕方
- 保護者への協力依頼および啓発の仕方
- 各教科間、学級間の調整

もう一つ大切なことがありますよ。学校週5日制を考えると、家庭教育を支援するという発想から、家庭との連携を深めていくことが大切なのではないのでしょうか。

- 宿題を「出してほしい」と考える保護者と、「あまり出さないでほしい」と考える保護者、両者への対応を考慮した上で、次のようなことを積極的に保護者に説明し、家庭の理解と協力を得られるようにしていきましょう。



- 学校の考える家庭学習の在り方
- 宿題についての学校の方針と保護者への協力依頼
- 学年段階に応じた保護者のかかわり方 など

- 子どもや保護者の声にも十分耳を傾けていきましょう。連絡帳を活用したり、学級懇談会等での情報交換を通したりして、子どもの心を理解し、保護者との連携を深めるなど、柔軟に対応していきましょう。

よりよい宿題のために



宿題を出す際には……

1 目的を明確にしましょう

この宿題で子どもにどのような力をつけたいのか、どのような態度を育てたいのか等、目的をもって宿題を出しましょう。また、その目的に最も合う出し方についても考えたいものです。

2 やり方を具体的に教えましょう

調べ学習などで、いきなり「自分の調べたいことについて調べてきなさい。」というのでは、何をどこまでどう調べていいのかわからない場合があります。子どもは、教師が出す様々な宿題をこなしていく中で、学習のやり方を身につけていきます。「自ら学ぶ」態度を育てるためには、まず、「学び方」を学ばせなければなりません。そのためには、まず日常の教科指導の中で「どのように学習するか」を習得させる必要があります。

3 時には個に応じた宿題も考えましょう

一斉に出す宿題のよさもありますが、目的や内容によっては、習熟の程度に応じた出し方をすると子どもの学ぶ意欲を喚起することができます。習熟度の高い子どもには発展的な課題を、基礎・基本の定着が不十分な子どもには基礎的な問題をというように、その子に応じた宿題を用意しておく、一人ひとりに合った学習ができます。ただし、このような場合、子どもの受け止め方は様々です。子どもが差別感や劣等感を感じることはないよう、子どもの心情への配慮が必要です。

例えば、具体的な目安を示し、子ども自身に選択させたり、また、教師の温かい助言によって選択させたりするなど配慮して、子どもが自ら学ぶ姿勢につなげましょう。

4 授業で指導すべき内容と宿題は区別しましょう

宿題は、基本的には子どもが自分でするものです。指導すべき内容は、授業でしっかり理解させてから宿題を課すというのが望ましいでしょう。

教師が教えなければわからない内容を宿題でやらせることは、能率が上がらないばかりか、教師の責任転嫁だと不信感を抱かれる結果にもなりかねません。授業の中で指導すべきことは、授業の中でしっかりと教えましょう。

5 分量を考えましょう

宿題の量が多すぎる場合は、最初からやる気になれません。最も効果的な分量を考えて出しましょう。

また、子どもの負担を考えて、一日の宿題の量を教科間で調整することも大切です。

宿題を出したあと……

6 きちんと目を通して子どもに返しましょう

宿題を出したが、時間がなくてチェックできなかった場合、子どもはどう思うでしょう。失望したり、次からはいい加減に取り組んだりするかもしれません。

宿題を出したら、大変でも必ずチェックしましょう。宿題の目的や種類、内容などにより、

- ・チェックだけでよいもの
- ・結果を確認する必要があるもの
- ・コメントまで書いて次に生かすもの
- ・親にも子どもの様子や成長を伝える必要があるもの

など、チェックの仕方を様々に工夫することも学習効果を上げる一つの方法です。

また、取組がよかった場合には、よい点を認め、ほめてあげましょう。それがさらなる学習意欲につながり、その積み重ねにより、やがては自分で課題を見つけて取り組む「学ぶ習慣」が身に付くことにつながります。

7 教師自身も出した宿題について振り返りましょう

「〇〇先生はいつも同じ宿題を出すから、まとめてやっちゃおう。」というものは宿題のよさが生かせません。また、宿題を出しても、ねらい通りに子どもの力が伸びていないようなものもあります。

「自分の出した宿題はどうだったか」ということを、子どもの取組の様子をみながら自己評価し、工夫改善を加えましょう。今まで見えなかった視点から、自分の指導の評価ができるかもしれません。それを次の指導に生かしていけば、よりよい指導ができるのではないのでしょうか。

8 よい実践があったら教師間で情報交換しましょう

教師間で情報交換をし、効率的な処理の仕方や評価など、よい実践があったら、それを取り入れていきましょう。

今まで悩んでいたことも、すぐ解決できるかもしれませんし、色々なアイディアに出会えて自分の世界が広がり、より充実した指導につながります。また、情報交換や意見交換をすることで人の和も広がります。



勉強の時間をつくりましょう

家庭学習で、子どもたちに「自ら学ぶ力」を育てましょう。

そのために家庭では

子ども自身の「やる気」を大切にしましょう

子どもは、「なぜだろう。」「ちょっとおもしろそうだ。」「変だな。」という気持ちから、学習に興味をもちます。このような気持ちを大切に受け止めて、励ましてください。

勉強の時間を決めましょう

各家庭に合った生活時間のなかで、勉強する時間を決めたいものです。その時には、子どもが自分で決めるようにさせたいものです。約束を守ること、自分で決めたことを貫き通す力を育てることも大切です。



低学年では、やる気を伸ばしましょう

- 低学年の子どもは、「何でもやれるよ。できるよ。」と言うことがよくありますが、実際にはなかなか一人でやるのが困難です。したがって、保護者の協力は欠かせません。やる気を失わない温かい助言や励ましを与えて、次へのやる気を育てましょう。

ポイント

- 宿題のやり方など、丁寧に教えてあげましょう。
- 親子で楽しく学習する体験をさせましょう。
- できるだけ短い時間で学習させましょう。

中学年では、自立の芽を大切に育てましょう

- 中学年になると、何とか自分で決めて行動をしようとする気持ちをもち始めます。しかし、その反面なかなか自分への甘えを克服できない時期でもあります。ですから、子どもの葛藤を知り、温かく見守ってやったり、ちょっと手助けしてやるなど保護者の心の余裕も必要です。

ポイント

- 勉強の内容が徐々にむずかしくなります。どんなことをやっているのか子どもに聞いて、声をかけましょう。
- 自力で取りくもうとする姿勢を積極的に励ましましょう。

高学年では、子どもの自主性を大切にしましょう

- 高学年になると、学習に対して、自分なりの見方、考え方をもち始めます。思春期を迎えようとしている子どもたちだけに自尊心も一層強くなります。ですから、自分なりに選択したり、工夫していることを大いに認めて、意欲的に取り組めるようにしましょう。

ポイント

- 自分の学習目標をしっかりと持たせましょう。
- 自分のペースでじっくり取り組ませましょう。

成長に応じたかわり方を心がけましょう

子どもの「やる気」を感じとり、
ほめたり、励ましたりしながら
「自ら学ぶ力」を育てましょう。

宿題振り返りシート

観 点	項 目
学校としての 共通理解は？	☐ 宿題の意義について教職員で共通理解をしていますか。 ☐ 子どもの実態を把握して宿題を出していますか。 ☐ 宿題の意図について学年PTAや学級懇談・家庭訪問等で保護者へ説明をしていますか。 ☐ 保護者の意見にも耳を傾け、宿題の出し方を改善していますか。
出 し 方 は ？	☐ 宿題の目的を子どもたちに伝えて出していますか。 ・既習事項の定着を図る宿題、興味関心を高める宿題、個の伸長をはかる宿題 ・じっくり取り組む経験をさせる宿題 ☐ 宿題のやり方を十分説明して、宿題を出していますか。 ・何を、どこまで、どの程度までやるのか ☐ 学年に応じた宿題の量を考えて出していますか。 ☐ 授業で子どもの理解を確認して宿題を出していますか。 ☐ 学年間・教科担任との連携はとれていますか。 ☐ 時には、特定の学習内容定着のために期間を設け集中的に宿題を出していますか。（かけ算九九、漢字練習など） ☐ 毎日の宿題と長期休業中の宿題を区別して出していますか。
内容の工夫は？	☐ 子どもが自分でできるものですか。 ☐ 時には個に応じた宿題を出していますか。 ☐ 時には子どもが楽しく取り組めるような宿題を出していますか。 ☐ 時には家族で対話できるような宿題を出していますか。 ☐ 宿題の内容について、周囲の先生や書籍等から情報を収集し工夫していますか。
評価・点検の ポイントは？	☐ 子ども一人ひとりの成長や努力を認める評価をしていますか。 ☐ 宿題の内容に応じて評価し、子どもに伝える工夫をしていますか。 ☐ 保護者に子どもの成長や努力が伝わるような工夫をしていますか。 ☐ 評価・点検の仕方を教師間で情報交換していますか。